

■主要科目の特徴 《リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻》

①	科目名	心理言語学	
	配当学年・学期	1年生／後期	
科目の特徴	<p>言語の理解と産生について心理学と神経生理学の両側面から学ぶ科目であり、受講により2年次の「失語・高次脳機能障害学Ⅰ・Ⅱ」の理解に必要な基礎知識を修得することができる。</p> <p>心的辞書、概念と意味、語の認知、文法および構文ネットワーク、発語、読み書き、思考と言語といった心理的概念と、これらに対応する生理学的基盤、特に脳内の局在や脳活動との関連について理解することを目的としている。</p>		
②	科目名	吃音学	
	配当学年・学期	2年生／前期	
科目の特徴	<p>代表的な発声発語障害の一つである吃音について学ぶ専門科目である。吃音の原因、発症率、自然経過、発話の特徴、合併しやすい心理・社会的問題、さらには検査の技法と結果の解釈、治療・訓練、その他の支援について学ぶ。</p> <p>受講を通して、吃音に対し言語聴覚士として基本的な初期対応ができ、かつ吃音を持つ人々に対し医療専門職として望ましい態度で接することができるようになることが目的である。</p>		
③	科目名	臨床言語聴覚療法学演習	
	配当学年・学期	3年生／後期	
科目の特徴	<p>2年前期から3年後期までの間に学んだ専門科目(失語・高次脳機能障害、言語発達障害、音声障害、構音障害、吃音、摂食嚥下障害、聴覚障害の各領域)の内容を講義形式で科目横断的に復習する。さらに、模擬症例を用いて医療面接、検査の選択および実施、結果の解釈、治療計画の立案といった初期対応を実習形式で学ぶ。3年生後期の臨床実習の準備として、専門的知識と実践能力とを統合することを目的としている。</p>		
④	科目名	言語聴覚学研究法	
	配当学年・学期	3年生／後期	
科目の特徴	<p>科学的思考あるいは科学研究とは何か、科学論文の種類と形式、研究倫理、研究テーマの選定、文献検索、データ収集、結果の分析および解釈、研究成果の公表等について、講義と実習形式で学ぶ。</p> <p>4年次の専門科目である「卒業研究」の履修に必要な基礎知識を得ることとともに、卒業後に行う臨床研究を視野に入れ、科学研究の基本的な方法論を理解し科学的態度を身に付けることを目的とする。</p>		